

2022
年度

活動 報告書



認定NPO法人 **中部リサイクル運動市民の会**



2022年度は、長らく続くコロナ禍から平時への兆しが見えてきた1年となりました。弊会の活動でも、2年ぶりとなる市民リサイクラー全体会を対面方式で開催することができ久しぶりのボランティアのみなさまとの再会を喜びました。

一方で、世界各地では戦争や内戦が長期化し、尊い命が奪われていることも悲しい現実としてニュースで接しない日はありませんでした。

一歩間違えると世界が不穏な方向へ進むのでは、という漠然とした不安を払拭できない1年でもあったと感じています。

戦争に巻き込まれる何の罪もない子どもたちのためにも、1日でも早く平和な日常が戻ることを祈ります。

さて、中部リサイクルの1年を振り返ると、大きな決断としては資源運搬業務の内製化を決行した点が挙げられます。リサイクル事業の収支改善を図るためとはいえ、素人の我々にはリスクを伴う決断でしたが、みなさまのご協力で何とかやりきることができました。

また、2年ぶりとなる対面での全体会やJICA研修は、コロナ禍の閉塞感から抜け出し、今後に向けた明るい兆しとなりました。

一方で、20年以上共に活動してきた副代表理事の和喜田君の退職が決まり、会としては大きな転換期を迎えていると感じています。

今後活動を持続、発展させていくためにはどうしたらよいのか、和喜田君には引き続き理事として参画いただき、共により良い方向へと組織を導いていただければと思います。

今年度も各現場を支えてくださった市民リサイクラーさん、会員の皆さまへはこの場をお借りして感謝申し上げます。

代表理事 永田 秀和



2022年度活動

中部リサイクル運動市民の会では、2022年度に以下の活動を実施することができました。皆さまのご協力・ご支援に心より感謝するとともに、その内容と成果の一部を「活動報告 1～4」でご報告します。

●地域循環型市民社会システムと場づくりに関する事業

非営利団体とのネットワークへの参画、環境配慮型商品の普及など

●ごみ減量に関する事業

リユース&リサイクルステーションの運営、Re☆創庫(りそうこ)・Re☆ショップ(りしょっぷ)の運営、チャリティBOXの運営など

●環境に関する知識の普及及び啓発事業

環境教育活動、記念日植樹券プレゼント事業など

●障がい者の就労支援に関する事業

リユース&リサイクルステーション・Re☆創庫での障がい者の活動受け入れ、Re☆ショップの共同運営など

●災害時の物資供給や救援に関する事業

ウクライナへの募金活動など

●開発途上国・地域における環境・社会問題解決に関する活動

国際協力機構(JICA)による開発途上国向け廃棄物管理研修の企画運営など

活動報告-1 地域循環型市民社会システムと場づくりに関する事業

活動報告1-1 なごやハートステーションプロジェクト

家庭に眠っている不用品のリユースや、羽毛製品のリサイクルのため、名古屋市内の障がい者福祉施設等にそれらを回収する「ハートステーション」を設置するプロジェクトです。集められた不用品は中部リサイクルで選別・リユースされ、羽毛製品は「社会福祉法人すぎな」で解体、「河田フェザー株式会社」でリサイクルされます。



YouTubeでプロジェクトのPR動画が見られます!

2022年度は地球環境基金の助成を受け、企業や団体向けのページをウェブサイト内に作り、企業向けのPR動画を作成しました。環境イベントにもブース出展し、市民への告知につとめました。また、アパレル商社から定期的に軽欠点の衣類等の寄付を受け付け、ハートステーションでタグの処理を行った後チャリティショップで販売し、加工手数料を福祉施設にお支払いしました。

担当者の声

Instagramでのプロジェクトの情報発信をメインに担当しています。プロジェクトでは動画でのPRにも力を入れていて、市民編、企業編など現在6本が公開されています。それぞれ1～2分の短い動画ですので、ぜひお気軽にご視聴ください!(事務局/庄司 里美)



活動報告1-2 日本チャリティショップ・ネットワーク(JCSN)

チャリティショップの認知度を高め、不用品のリユースや社会貢献活動の支援などを促進する「チャリティショップ文化」を創ることを目指して、チャリティショップ運営団体やチャリティショップに関心のある人たちが参画しているネットワークです。2021年度からは当会がJCSNの事務局を担当しています。

2022年度は、チャリティショップに関する講演会や、チャリティショップの運営に関心のある方向けの交流会を開催したり、チャリティショップの2本のPR動画「チャリティショップの

魅力～地域で生まれるモノの循環」「チャリティショップを支えるボランティアの声」を制作したりしました。動画はYouTubeでご覧いただけます。(担当/和喜田)



チャリティショップを支えるボランティアの声のひとつ

活動報告2-1 リユース&リサイクルステーション

家庭から排出される10品目のリサイクル資源と12品目のリユース品を、スーパーマーケットなどの駐車場で定期的に回収する活動です。「リサイクルステーション」としては1991年から継続実施しています。市民・企業・行政・メディア・NPOがそれぞれの役割を担い、この活動を支えています。2023年4月現在、名古屋市内に常設会場を含め26会場あります。

2022年度のリサイクル資源の回収量(常設会場を除く)は575トン(前年度比85%)でした。店舗建て替え工事の影響で、西友御器所店(昭和区)のステーションが閉鎖となりました。

2021年度の総回収量が、前年度比94%だったため、今年度もその程度で落ち着くと想定していましたが、前年比85%と想定以上の減少となりました。2022年10月より、それまで外部委託していた古紙・古着回収の内製化を進め、リサイクル事業の改善を図りました。



自社トラックでの回収

●活動実績(3か年比較)

	2022年度	2021年度	2020年度
会場数	26会場	27会場	27会場
総回収量	575トン	680トン	726トン
延べ開催回数	758回	765回	777回
延べ持ち込み件数	50,051件	59,183件	59,729件
延べリユース受付件数	10,918件	13,434件	11,731件

担当者の声



ステーションの現場運営を担う市民リサイクラーの皆さんをはじめ、多くの方々に支えられて2022年度も活動を行うことができました。近年の物流コスト高騰と古紙価格の下落により、資源の売却で得られる収入よりも、収集運搬委託費の方が高くなる状態(逆有償)が続いています。そのため、今年度は外部委託していた一部会場の運搬を自分たちで行いました。トラック購入費やみなさんの負担増などデメリットもありますが、ステーション存続のためご理解とご協力をお願いいたします。(代表理事/永田 秀和)

活動報告2-2 物流センター

2019年に、それまで各店舗で実施していた寄付品の仕分け・値付け作業を一か所で集中して行うことで、リユース事業全体の効率化を図ることを目的に立ち上げた施設です。

2022年度は、スタッフ5名、運搬スタッフ4名、市民リサイクラー15名で運営しました。(2023年3月現在)

管轄業務として、

- ①全ての寄付品の仕分け・値付け・保管
- ②各店舗(直営店舗3店舗・他団体との連携店舗2店舗(2023年3月現在))へのリユース商品の発送(毎週)

担当者の声



2022年度は、コロナが収束に向かい、お客様の外出する機会が増えたので、2021年度以上に、多くのリユース品の持ち込み寄付が増えました。ありがたいことです。また、ボランティアで活動される方々も増え、日々活動頑張ってみえます。このリユース品を生かし物流センターでいいねいに選別し、販売に回したいと思います。(担当/工藤 隆仁)

- ③Re☆創庫あつたのリユース&リサイクルステーション運営
 - ④食器などの海外リユース
 - ⑤ステーションで回収したびん・金属類・羽毛製品・リユース品等の運搬、計量
 - ⑥リユース&リサイクルステーションへの備品運搬
 - ⑦リサイクル食器の管理
- などを実施しています。

2022年度は、未利用古着の有効活用の一環で、民間の古着屋さんに古着を卸すピックアップ販売をスタートさせました。また、今年度もRe☆創庫やステーションを直接利用することができない多くの方から宅配による寄付(随時受付)をいただき、リユース活動の広がりを実感することができました。

(代表理事/永田 秀和)



宅配で届いた寄付品

活動報告2-3 エコロジーセンターRe☆創庫あつた

名古屋市熱田区に2010年にオープンした1号店です。2022年度の施設利用者は延べ17,689名、リユース点数は82,806点、リユース売上は約1450万円となりました。

マネージャー1名、サブマネージャー2名、7名の市民リサイクラーで運営しました。

あつたでは各自担当を持って作業をしていますが、初めての担当替えをして3年目、それぞれが工夫を凝らし知恵を出し合いながらお客様に楽しんで頂ける様な店作りを心掛けました。

しかしコロナの影響が尾を引きイベントの告知も控えめにしたことで集客に繋がらず、年度の売り上げは残念ながら

前年に及びませんでした。改装前に恒例となっていたリメイク作品展を11月に開催しました。参加者を増やすことが今後の課題です。(サブマネージャー／山田 美由紀)



四年ぶりの作品展 力作が揃い注目を集めました

担当者の声

2022年度はお客様との距離が近くなったと実感できた年でした。店内でのお客様同士の会話、スタッフとお客様とのやり取りは店を作っていく上で参考になり、勉強にもなります。それを生かしていくのがサブマネージャーの仕事と心得、日々努めています。

(サブマネージャー／山田 美由紀)



活動報告2-4 エコロジーセンターRe☆創庫さくら

2014年に、障がい者支援に取り組む『(社福)親愛の里』との連携により名古屋市南区にオープンしました。2022年度の施設利用者は延べ12,131人、リユース点数49,666点、

リユース売上約1258万円。2022年度は、マネージャー1人、リサイクラー10人で活動しました。

2022年度、Re☆創庫さくらは前年比105%の売り上げになりました。新しい試みとして、いちごクーポン券(1点のみ15%OFF券)を5がつく日に配布したり、11月には、ラインの公式アカウントを取得。「ライン見てきたよ!」という声もあり、売上増加につながったと感じています。

また、店内の品出し、品替えをこまめに行ったり、品下げしたものを売りつくすように工夫したことも効果があったと思っています。(マネージャー／浅井 久美)



体験学習の中学生たちとパチリ

担当者の声

ご近所の一人暮らしの高齢の方に、「何も買わなくてもいいから、顔見せに来てね。」と、声をかけています。地域の方たちの暮らしの一部になり、ものを売るだけでなく、コミュニケーションの場としても、愛されるお店でありたい。そして、お客さんたちが、応援したくなるお店。結果的には、その想いが売上増加につながっている気がします。

(マネージャー／浅井 久美)



活動報告2-5 Re☆ショップよしの

2014年にオープンした、資源回収を行わずリユース品の販売と受付のみを行う店舗です。2022年度の施設利用者は延べ8,525人、リユース点数26,644点、リユース売上は約568万円となりました。2022年度はマネージャー、スタッフは常勤せず、13名の市民リサイクラーで運営しました。(2023年3月末現在)

2022年度はコロナ禍で中止していた、周年祭を10月に3年ぶりに行いました。その他、各種フェア、よしのDayもやり方を



クリスマスフェアの様子

変えて再開、夏のセール、歳末セール、初売りとイベントも徐々にコロナ前に戻りました。昨年度同様に外のベンチ、ワゴンには食器の均一品、お値打ち品を並べ、目につくようにしました。

担当者の声

店舗の入口付近のワゴンは、フェアのもの等並べていましたが、商品がたくさんある雑貨類、文具を出したらよく売れました。今後も定期的に入れ替えてられるよう、よしのの皆さんと一緒に考えていきたいです。(マネージャー／松原 和江)



活動報告2-6 Re☆ショップなかた by ぐるっぺ

障がい者作業訓練の一環で千種区にある「NPO法人アダージョちくさ」を運営主体としてリユース品の販売と回収を行っています。2022年度の施設利用者数は延べ4,801人、リユース点数15,039点、リユース売上は458万円となり

担当者の声

障がい者スタッフが10名に増えたためシフトを組んで活躍してもらっています。新しいお客さんにもっと活動を知っていただけるように入りやすく、スタッフも親しみやすいお店にしていきたいと思っています。(Re☆ショップなかたスタッフ／駒井 可奈子さん)



ました。

2023.1月には一旦以前の店舗を閉め、50mほど南へ移転し1/23に再オープンしました。店舗面積は半分以下になりましたが、そのぶん

こまめに商品を入れ替えたり、置き場所を移動させたりと毎日来て何かしら変化のある売り場作りを心がけています。



移転後の店舗外観

活動報告2-6 Re☆ショップとよあけ

2021年6月に豊明市にオープンし、リユース品の販売と受付、こころと体にやさしいお弁当の販売、フードドライブも通年で受付している店舗です。

2022年度の施設利用者数は延べ878人、リユース点数3519点、リユース売上は約94万円となりました、フードドライブは約3500点の食品や日用



入口にあるわくわく掘り出しワゴン

品をお店のある豊明市内で必要としている方に支援いたしました。

2022年8月から古紙回収ステーションのコシココを設置し、古紙リサイクルも受付を開始いたしました。

担当者の声

SDGsの社会的な認知度向上もあって、これまでリユースを活用していなかった人が、世代を問わずお店に来店されるようになりました。幅広い世代の方にワンストップで多様な利便性を提供できる店舗を目指します。(Re☆ショップとよあけスタッフ／中西 芳美さん)



活動報告3-1 記念日植樹券プレゼント事業

2001年から継続している中部電力(株)との協働事業です。2020年度に20周年を迎え、66,000人を超える方々と13団体のNPOとともに、44万本以上の苗木を国内外に植樹してきました。

2022年度は、「植物プレゼント&森を楽しむツアーにご招待!」という企画を実施し、お部屋やお庭で楽しめる植物の

プレゼント(300名)と、静岡県掛川市の時ノ寿の森でのツアー(2回)を行いました。また、2021年度に引き続き、記念日植樹券事業の次の展開として、静岡県掛川市にある荒廃した里山を自治体・企業・NPO・地域住民等とともに保全・活用するプロジェクトの検討を行いました。(担当/和喜田 恵介)



森を楽しむツアーのようす



「植物プレゼント&森を楽しむツアーにご招待!」の募集チラシ

活動報告-4 開発途上国・地域における環境・社会問題解決に関する活動

活動報告4-1 ジャイカ JICA廃棄物管理研修

2015年から継続している、独立行政法人国際協力機構(JICA(ジャイカ))からの受託事業です。2021年度の研修は、コロナ禍で研修員が来日できなかったためオンライン研修となりましたが、2022年度事業は2年ぶりの来日研修となりました。

研修期間は1月20日から2月22日までの約1か月間。対象国はアフリカのジブチとモーリタニアの2か国で、フランス語での研修となりました。それぞれの国で廃棄物管理を担当する4名の研修員は、自治体が行うごみの収集・運搬、中間処理、埋立処分などについて学習したり、企業や



雪の中、名古屋市愛岐処分場を視察する研修生

NPOが取り組む3R活動などを視察したりしました。

今回の研修では、笠原理事に加えて、環境学博士の松野理事にも研修運営にご協力いただけたため、より専門性の高い指導体制となりました。(担当/和喜田 恵介)



全員コロナにかからず、無事に修了できました!

活動報告 事務局より

- 2022年度は、2年ぶりに市民リサイクラー全体会を対面で開催することができました。久しぶりにみなさんと直接お会いでき、とても充実した全体会となりました。
- 引き続きコロナ禍ということで在宅勤務を織り交ぜて業務に取り組みました。総会も理事会もオンラインで行いました。
- 副代表理事で事務局長だった和喜田君が退職し、非常勤理事となりました。新天地でのご活躍を祈念しています。また、理事として今後も会の運営には協力していただけます。

スタッフの 声



大学卒業後、当会に就職して24年。おかげさまで有意義な時間を過ごすことができました。新しい職場は外資系の紙容器の会社で、ここでもリサイクル業務を担当しています。中部リサイクルには今後も関わりたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。(担当/和喜田 恵介)

活動報告 支援者情報

ご支援・ご協力、本当にありがとうございます！ 紙面の都合上、一部のみ掲載させていただきます。(五十音順)

- 施設提供
(一財)日本陶業連盟
- 協賛金
キリンホールディングス(株)、(株)清水屋
- 助成金
(独)環境再生保全機構(地球環境基金)
名古屋市
- 告知協力
(株)中日新聞社
名古屋市
名古屋リサイクル推進協議会
(株)メディアブレーン(環境情報紙Risa)
- ボランティア
市民リサイクラー(登録者数78名)

※2023年3月末現在

活動報告 会員情報

- 会員として活動を支えていただきありがとうございます。
今後も、変わらぬご支援をよろしく
お願いいたします。

※2023年3月末現在

会員種類	人数	会員種類	団体数
個人正会員	22名	団体正会員	13団体
個人賛助会員	109名	団体賛助会員	6団体
学生賛助会員	1名	合計	151名・団体

団体情報

会員になって活動を支えてください！

- | | |
|------|--|
| 会員特典 | 1.会報を定期的にお届けします。
2.主催イベントに割引価格で参加できます。
(正会員のみ) |
|------|--|

入会ご希望の方はこちらまで

正会員 (議決権あり)	個人	ー□ 10,000円
	団体	ー□ 20,000円
賛助会員 (議決権なし)	個人	ー□ 3,000円
	団体	ー□ 10,000円
	学生	ー□ 2,000円

事務局へのアクセス



認定NPO法人 中部リサイクル運動市民の会

お問い合わせ/〒461-0002 名古屋市東区代官町39-18 日本陶磁器センタービル5F TEL.052-982-9079 FAX.052-982-9089

メール staff@es-net.jp ホームページ <http://www.es-net.jp>

<デザイン> ant design